

広報

浦安市

うらやす

主な内容

浦安の七五三	2・3面
児童育成クラブ令和5年 4月入会申請 ほか	6面
生後6カ月～4歳の方の ワクチン接種を開始 ほか	8面

発行／浦安市
 所在／〒279-8501 千葉県浦安市
 猫実一丁目1番1号
 編集／企画部広聴広報課
 ☎047-351-1111(代表)
<https://www.city.urayasu.lg.jp>

市の人口と世帯 人口=169,149人(-61) 男=82,202人(-56) 女=86,947人(-5) 世帯数=83,038世帯(+4) 令和4年10月末現在()は前月比

各記事に掲載しているIDを市ホームページの「広報ページID検索」に入力すると、該当のページが出ます。これにより、記事を探す手間を省けます



健やかな
成長を
願って



かつて医療が発達していなかった時代は、子どもが大人になるまで育てることは大変なことでした。節目の年齢で成長を祝い、これからも無事に育つことを願って儀式を行っていたことが、七五三にながっています。市内には、今年めでたく七五三を迎えた子どもたちの笑顔があふれています。

七五三の由来

「七つまでは神の子」と言われていたことをご存じですか。昔はささいなことが原因で子どもが亡くなることが多かったため、7歳までは安定せず神様の手の内にあると考えられていたそうです。特に3歳・5歳・7歳は節目の年齢とされ、儀式を行い無事の成長を祈っていました。



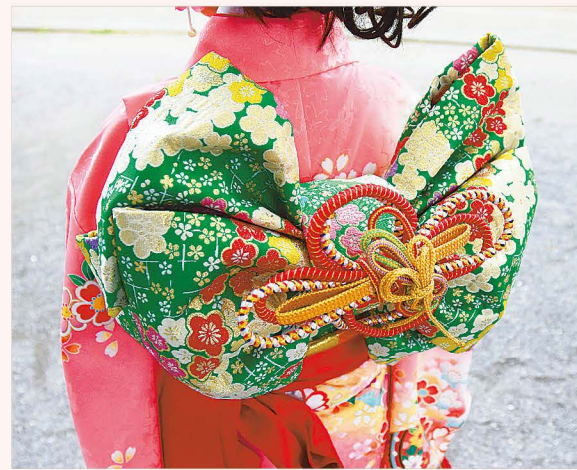
3歳 髪置

男女とも生まれて7日目ごろに産毛をそり、3歳までは坊主頭で育てていました。3歳になり髪を伸ばし始めるときに、子どもに綿帽子をかぶせ、これを白髪に見立てて長寿を祈ったそうです。



5歳 袴着

男女ともに5～7歳で初めて袴をつける儀式。着袴と言われることもあります。平安時代にはあったようで、身分の高い家では、吉日を選び、手順に従って袴とそのほかの装束を着せていく儀式でした。



7歳 帯解

ひもを縫い付けた着物を着ていた子どもが、大人と同じように帯を結んで着物を着るようになることを祝う儀式です。江戸時代から7歳の女の子の儀式となり、11月15日にされるようになりました。

現在では11月15日にこだわらず、9月から11月の都合のよい日にお参りする家庭も多いようです。

また、地方によって名称なども異なり、3回のうち1回だけお祝いをするところもあるそうです。かつて、浦安も含めて東京湾沿いの地域では、男女ともに7歳で行うことが多く、「七つ祝い」などと呼んでいました。7歳で幼児期が終わり、地域社会の一員として役割を果たしていくものと考えられていました。

出典：佐々木宏幹、宮田登、山折哲雄監修 「日本民俗宗教辞典」東京堂出版 1998年
国史大辞典編集委員会編集 「国史大辞典」第2巻（1982年）、第3巻（1983年）吉川弘文館
鈴木敬三編集 「有識故実大辞典」吉川弘文館 1996年

千歳あめ

あめを長く伸ばして作ることから長寿を連想し、子どもが健康で長生きすることを祈って食べます。袋には鶴や亀、松竹梅などの縁起のよい絵柄や、子どもに人気のキャラクターが描かれます。

食べきれなかったら溶かして砂糖の代わりに料理に使ったり、コーヒー・紅茶などに入れたりして甘みを楽しむこともできます。



浦安の七五三

市内の神社には、色とりどりの晴れ着でお参りをしている子どもたちがいました。皆さん、おめでとうございます。これからも元気に過ごしてくださいね。



七五三合同祝い

暮らしの合理化を推進するために、一時期当時の町が主催し合同のお祝いを行っていました。

公民館や小学校の体育館で、みんなで祝った思い出がある方もいるのではないのでしょうか。

